

冠婚プロジェクト

「放課後子ども学習教室」に参加して



大浜 勝彦

こんにちは・・・と入ってくる子ども達、笑顔がいっぱい。

大浜小学校、全年対象の放課後子ども学習教室は、火・木曜日の2日間、児童70名のプロジェクトは、今年で2年目。30分という時間の中で、宿題を中心に自主学習している。子ども達は「友だちと勉強するのが楽しい」と元気がいい。

低学年(1年・3年)は家庭教室、高学年(4年・6年)は理科室で学習する。学習環境が異学年なので、集中力がバラバラだ。終了10分前！とコールすると、皆、慌てて課題に取り組みのが常だ。

保護者からは「学習教室で勉強を終えた日は、早寝ができ、生活のリズムが良



冠婚PJ 地域教育懇談会

くなる」「大変意義深いことで、継続してほしい」など感想が寄せられている。私も同感である。

短い学習環境が家庭学習へ繋がり、子ども達の生活リズムが良くなっていくために・・・有意義な放課後になるよう、学習支援していきたいと思えます。

平成二十五年 沖縄県シルバー人材センター経験交流大会に参加して



理事 請盛 スミ

自主、自立、共働、共助の理念の基、沖縄県では平成25年3月末現在、センター数16団体、会員数、600名で「年間通べ46万人の方々が自らの豊富な経験と知識を活かし、元気で活躍しています」と会員の様子を紹介します。声高らかに

会員の経験発表がはじまりました。

糸満シルバー人材センター代表の大城さんは「会員の就業活動を広げたい」と題して、いかにすれば活動の場を広げることが出来るかをユーモアたっぷりに発表されました。

豊見城シルバー人材センターの川端さんは、「シルバー人材センターは高齢者の道標」と題してお世話している方との接し方や家族

との関係をいかに保つか、お世話していた方がお亡くなりになった時に「川端さん、最後の仕事ですよ、野辺の送りまでよろしく頼みます」といわれた時は涙が止まらなかつたと、心温まる話をしてくださいました。

南城市シルバー人材センター代表の奥原さんは「シルバーは一歩三得」と題して、シルバー人材センターは「一石二鳥にも三鳥にもなる」とにこやかに話して、悠々自適に「そう」と思っていたのにセンターに入会して、仲間づくりの大切さ、仕事に生きがいを感じ、一生現役を目指していることなどを発表し、最後に「ぼけない音頭」の独唱つきで三人の発表が終わりまし

た。

安全就業推進員の紹介

・鹿原 欽一 さん
・宇部 一吉 さん

会員の安全を守るために安全チェックを行いますので、よろしくお願いします。安全就業推進員として各就業現場の巡回を行い安全就業の確認及び推進に努めます。特に事故の多い車椅子作業の使用器具類の安全チェックに重点を置き安全バトロールを実施します。

講演では、沖縄在住の落語家おきらく亭はち好氏の落語「笑いはぬちぐすい」を面白く、おかしく聞かせてもらいました。人は楽しいから笑うのではなく、笑うから楽しくなる。沖縄のおばあちの明るい笑い声が仲間づくり、長寿の秘訣ではないかなどのお話でした。私も今回の大会に参加させてもらい、仲間づくり、仕事に対する意欲、人生「一生現役」を目指して頑張り、と、決意を新たに帰ってきました。ありがとうございました。